

第2回サステナブルデザイン国際会議 Destination 2007-2025
ワークショップまとめ

(巻末*1参照)

エコイノベーションで実現する

サステナブルなライフスタイル

(目標年2025年)

Ver.2.0

サステナブルデザイン国際会議実行委員会…編

21世紀らしい生き方への第一歩 (絵巻)

エコイノベーションで実現する サステナブルなライフスタイル (目標年 2025 年)

第2回サステナブルデザイン国際会議 Destination 2007-2025 ワークショップまとめ

2008 年 7 月 7 日 Ver.2.0 ●「地球温暖化に関する総理懇談会 (2008 年 5 月 26 日) 資料」改訂版

監修 山本良一 (組織委員長)
発行 サステナブルデザイン国際会議実行委員会
編集 有限責任事業組合エコデザイン研究所
デザイン 株式会社オープンハウス

*1 第2回サステナブルデザイン国際会議 Destination 2007-2025 *

サステナブルな社会におけるデザインの役割、ふさわしい生活価値観の創出と提案、普及を目的とした国際会議。デザイナーや学生、企業の環境開発担当者、NPO/NGO など約 120 名が参加、世界遺産白川郷で 3 日間にわたってサステナブルなライフスタイルの姿を議論し、提案した。

*会議タイトル「Destination 2007-2025」は、毎ミコウントダウンし (例: 来年は「Destination 2008-2024」) 一日でも早いサステナブルな社会の実現を目指す。

会期 2007 年 12 月 21 日 金 ~ 23 日 日 3 日間

会場 トヨタ白川郷自然学校

主催 サステナブルデザイン国際会議実行委員会

組織委員会委員長 山本良一 (東京大学生産技術研究所 教授)、実行委員会委員長 益田文和 (東京造形大学 教授)

共催 エコ・エフィシエンシーとエコデザインに関する特別研究会 (SPEED 研究会) (*2)

国際ユニヴァーサルデザイン協議会 (IAUD) (*3)

国際若手デザイナーワークショップ開催委員会 (名古屋市、(株) 国際デザインセンター) (*4)

後援 経済産業省、環境省、大塚市、(株) 環境管理協会、社団法人日本グラフィックデザイナー協会、社団法人日本インダストリアルデザイナー協会、(株) ミニディスプレイデザイン協会、社団法人日本パッケージデザイン協会、財団法人国際デザイン交流協会、社団法人日本産業デザイン振興会、エコ産業創出協議会、日本デザイン機構、おおさか ATC グリーンエコプラザ実行委員会、ネイチャー・デザイン研究会、ユニバーサルデザインフォーラム、ユニバーサルデザイン・コンソーシアム、日本経済新聞社、東京大学生産技術研究所、東京造形大学、NPO エコデザイン推進機構、NPO エコデザインネットワーク、o2 Global Network foundation, o2 Japan

協賛 株式会社 INAX、エプソン販売株式会社、セイコーエプソン株式会社、株式会社地球の芽、株式会社東京デザインセンター、株式会社 東芝、トヨタ自動車株式会社、富士通株式会社、日本デザインコンサルタント協会、Indonesia-Japan Friendship Association、Paperina Design

協力 トヨタ白川郷自然学校、JTB 法人東京、社団法人日本産業デザイン振興会 (JDPO)、有限責任事業組合エコデザイン研究所

事務局 サステナブルデザイン国際会議事務局 (有限責任事業組合エコデザイン研究所内) www.ecodesigninstitute.com

*2 国際ユニヴァーサルデザイン協議会 (IAUD)

ユニヴァーサルデザインのさらなる普及と実現を通して、社会の健全な発展とくらし創りを目指す活動体。145 社、12 団体、51 名が参加 (2007 年 10 月 1 日現在) する、国内最大の UD 推進団体。 www.iaud.net/

*3 エコ・エフィシエンシーとエコデザインに関する特別研究会 (SPEED 研究会)

「環境に配慮した新しい働き方と持続可能な経営」を環境効率 (Eco-efficiency) とエコデザイン (Eco-design) の見地から徹底的に考察する研究会。山本良一 (東京大学生産技術研究所教授) 主宰。 www.speed.org/

*4 国際若手デザイナーワークショップ *2007

国際若手デザイナーワークショップ 2007 では「サステナブルな社会を描く、暮らしを描く ~ 2025 年のサステナブルな社会をどのようにつくりあげるか」をテーマに、5 カ国 21 大学・企業の次世代を担う若手デザイナー 24 人が問いかけ、ここに紹介する 4 つの提案を行った。

期間 2007 年 12 月 14 日 金 ~ 25 日 火

会場 国際デザインセンター (名古屋市)、白川郷・トヨタ白川郷自然学校 (岐阜県白川村)・エコプロダクツ 2007 (東京ビッグサイト)

主催 国際若手デザイナーワークショップ開催委員会 (名古屋市、(株) 国際デザインセンター)

共催 サステナブルデザイン国際会議 Destination 2007-2025

プロデュース キュー・リーメイ・ジュリア (国際デザインセンター・海外ネットワークディレクター)

企画 益田文和 / 東京造形大学教授、* オープンハウス代表取締役

*国際若手デザイナーワークショップ www.idcn.jp/workshop

日本はじめ世界各国の若者が国産・ジャン・企業・学院の枠を超えて集う、日本で唯一、世界でも類を見ない創造的・国際的なものとして、国内外の注目を集める国際若手デザイナーワークショップ。過去 7 年間の参加者は 38 ヶ国・300 人を超える。狭義のデザインという概念を超え、DESIGN FOR SOCIAL INNOVATIONS を核にグローバルな視点で捉えた社会の課題を、デザインや創造力で解決できる人材の育成を図る。

エコしぐさ、エコことば

日本には古来より、サステナブルな社会にふさわしい考え方やことば、そのことばを伝える言葉などが今日まで多く伝わっている。そうした知恵を改めて見直すことによって、これからのおおきな世に生かすことができるだろう。

三方よし

お互いさま

清貧

もったいない

ありがたい

吾唯知足

持ちつ持たれつ

いき

腹八分

いただきます

過ぎたるはなお及ばざるがごとし

自利利他

本資料は、東京大学名誉教授 山本良一氏並びにサステナブルデザイン国際会議実行委員会のご好意と許諾をいただいて、広く啓蒙普及を図ることを目的に制作致しました。21世紀らしいまちづくりや企業活動のためにご活用くださいますことをご期待申し上げます。

制作発行／NPO法人日本再生プログラム推進フォーラム

エコイノベーションで実現する サステナブルなライフスタイル（目標年 2025 年）

第 2 回サステナブルデザイン国際会議 Destination 2007-2025 ワークショップまとめ

本書の見方

■ オモテ（カラー印刷面）

上段雲の中：

タイトル ●

サステナブルな社会の生活シーンや社会テーマ
および、それらにおけるサステナブルなライフ
スタイルのシナリオ

短冊：

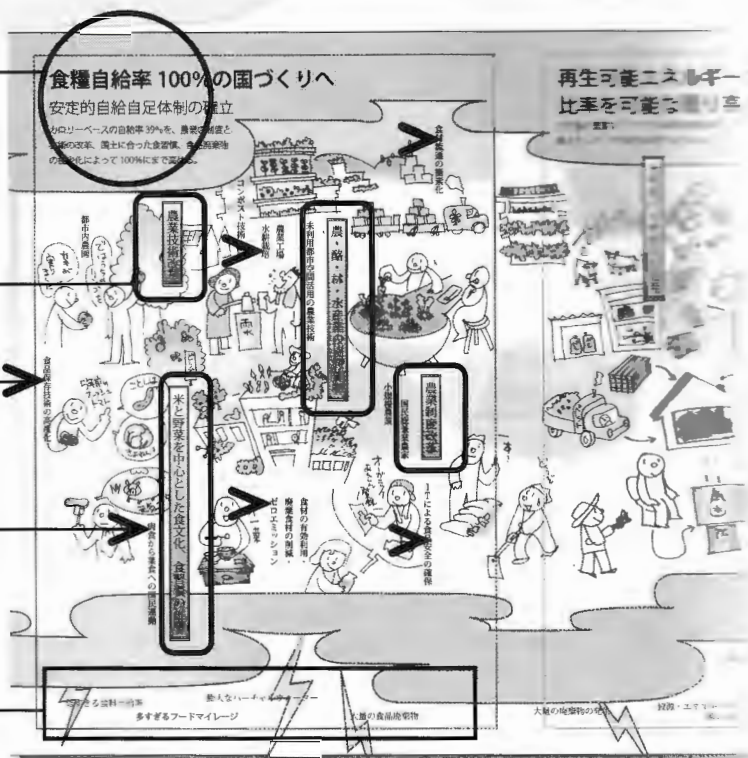
サステナブル・ライフスタイルの事例 ●

短冊外：

エコイノベーション ●

下段雲の下：

現代社会における環境／社会問題など ●



「オモテ」と「ウラ」は、印刷も表裏。

■ ウラ（モノクロ印刷面）

キーワード ●

各タイトルにおける、サステナブルな社会のキーワード
エコイノベーションを推し進める中にも生かしたい先達の知恵
や、価値観の拠り所となりうるワードリスト（随時更新）

学生の提案するサステナブルなライフスタイル ●

若手デザイナーワークショップ（巻末*4 参照）による
アイデア

食糧自給率 100%の国づくりへ

安定的自給自足体制の確立

カリブー・マースの自給率 39%を、農業の制度と
経済の改善、国産に合った食習慣
の普及によって 100%にまで高める。

キーワード

遺伝子組み換え作物の安全活用
トレーサビリティ
オーガニック農産物の確立
地産地消
食育
共同購入
食文化の見直し（和食の再評価、
カリブー・マースの自給率 39%を、農業の制度と
経済の改善、国産に合った食習慣
の普及によって 100%にまで高める。



食糧自給率 100%の国づくりへ

安定的自給自足体制の確立

カロリーベースの自給率 39%を、農業の制度と技術の改革、国土に合った食習慣、食品廃棄物の極少化によって 100%にまで高める。



低すぎる食料自給率

膨大なバーチャルウォー

多すぎるフードマイレージ

食糧自給率 100%の国づくりへ

安定的自給自足体制の確立

カロリーベースの自給率 39%を、農業の制度と技術の改革、国土に合った食習慣、食品廃棄物の極少化によって 100%にまで高める。

■ キーワード

遺伝子組み換え作物の安全活用

トレーサビリティ

オーガニック農法の確立

地産地消

旬産旬消

食育

共同購入

食文化の見直し（和食の再評価）

カロリー摂取量の適正化

エディブルランドスケープ、食べられる庭

おすそ分け

生物農薬

自立

身土不二

だれもが働ける社会をめざす

働く意思があれば、誰でもいつでも生涯を通して働くことが可能な社会
年をとっても、障害を持っても、やりがいをもって仕事ができる。

仕事を通じての社会参加

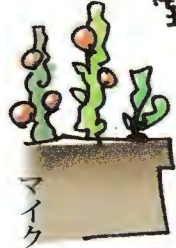


CSRとボランティア

ソーシャル・アントレプレナー



ワークシェアリング



マイクロ・ファイナンス

マイクロ・インベストメント

社会人職業訓練プログラム



従業員満足度



ワークライフバランスの調整



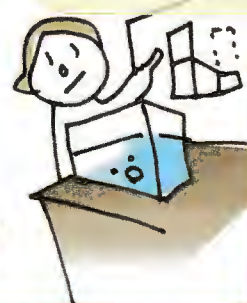
シェアオフィス



生涯教育



高齢者の活用



テレワーク（Eワーク）

ロボティクス

雇用不安（非就労者の増加）

外国人労働者の増加

外国人労働者の増加

雇用条件の不公平

仕事におけるやりがいの喪失

だれもが働ける社会をめざす

働く意思があれば、誰でもいつでも生涯を通して働くことが可能な社会。
年をとっても、障害を持っても、やりがいをもって仕事ができる。

■ キーワード

SOHO

流動化

技術伝承

半農半X

働き手の多様化（外国人、障害者、高齢者）

インターンシップ

やりがい

職業教育

多元的評価

クリエイティブオフィス

職住近接

ベンチャーキャピタル投資

サステナブル
若手デザイナー
サステナブルな
シェアするコ
することによ
くなる。

ここでの基本
生産される。
テナブルなラ

情報アクセス 100%をめざす

だれもがいつでも必要な情報に簡単にアクセスでき、自分の意見を発信でき、信頼できるサービスを利用することのできる社会。

エネルギー効率の良い通信技術の開発



双方向アクセス

コミュニケーションメディアの多様化

触れる地球

エコ・リテラシー

地球リテラシー

情報仲介サービス

地球環境マネージメント

遠隔医療技術

情報のユニバーサルデザイン

情報選別技術

ユビキタス・
コンピューティング

ヒューマンセンタードなインフラとインターフェース

情報家電

ICTで省エネに貢献する

エコ・ナビゲーション

市場へのアクセス

無線通信システムのエネルギー消費が過剰

質の悪い、不適切な情報の氾濫による情報環境の汚染

情報隠蔽、偽装、操作

個人情報の漏洩やネット犯罪などのリスクが増加

情報システムの複雑化に伴うインフォメーション・ディフュージョンの増加

情報アクセス 100%をめざす

だれもがいつでも必要な情報に簡単にアクセスでき、自分の意見を発信でき、信頼できるサービスを利用することができる社会。

キーワード

テレコミュニケーション

言葉のボーダレス化

情報公開

世代間コミュニケーション

インタラクティブ

ソーシャルネットワーキング

リアル・コミュニケーション

オンデマンド配信

E-Cal (イー・カロリー)

若手デザイナーワークショップ：Team C

家電や食品、建築物等すべての製品が生産される過程において排出されるCO₂と水の使用量から、製品の環境負荷をE-Calという単位で算出。

非営利団体 DIET-EARTH は、E-Cal 算出基準の公平性を保つ役割を担い、企業はその基準に基づき製品のカロリーを算出し、情報を貼示して販売する。消費者は製品がいかに環境に配慮されているかをE-Cal表示により知ることができる。E-Calはリアルタイムにデータベースに登録され、カロリーの低さを競い合うゲームをしたり、記録したりする。



全ての生命の源である水とそれを保全することは私たちの責任。

全ての生命の源である水とそれを保全することは私たちの責任。

環境に調和した人工物

森林の活性化

自然と生命の完全循環

多様な生物の保全

生態系の機能強化

自然資源の有効活用

地球環境と生態系の破壊が進み、地球温暖化が進行している

気候システムの崩壊が始まろうとしている

自然と共に生きる

全ての生命の源である地球とその自然を保全することは私たちの責任。

■ キーワード

認証制度（FSC、MSC、SPO）

ネイチャーテック

バイオテック

自然産業

環境保全型農業（本来農業）

アグロフォレストリー

里山の保全

バイオミメティクス

生物多様性

生態系サービス

PES（Payment for Ecological Service）